

2021年 東京工業大学 英語

解答・解説・採点基準

全2問 90分 150点満点

I (80点)

解答

- 1 Particularly, some human activities make negative impact on the natural environment, which can be quite difficult to reverse on a global scale.
- 2 我々の義務は、人類の永遠の生命を追求することよりも、むしろ子どもの死亡率が高いことの多い途上国の人々を助けることなのである。
- 3 Such a farming style is often combined with the use of chemicals to remove other plants and insects from large agricultural land.
- 4 今後の科学調査には、地球に存在する種の部分的絶滅につながるような活動を避けることによって、我々の文明がこの目標を達成できるようにすることが期待されている。
- 5 生物間で移動可能な遺伝子情報を保存することが必要なため、生物の多様性を維持しなければならない。(47字)
- 6 (1) A, (2) C, (3) E, (4) D
- 7 2, 6, 8 (順不同)

解説

1 「特に、一部の人間の活動は自然環境に悪影響を及ぼすが、それを地球規模で逆戻りさせるのは非常に難しいことがある。」という内容を英訳する問題。この文は内容的に、「一部の人間の活動は自然環境に悪影響を及ぼす」と「それを地球規模で逆戻りさせるのは非常に難しいことがある」という2つの部分から成っている。この2つの部分の間には後者が前者に説明を加えるものという関係があるので、これらの間にある「が」という助詞は単純にその前の部分と後の部分を接続するものということになる。「が」というと逆接助詞が連想されがちだが、この文の英訳において逆接の接続詞は使えない点に注意が必要である。

まず、和文の文頭の「特に」と先述の1つ目の内容部分について考察・検討する。下線部のある第3段落第1・2文の、生物は気象などの自然環境の影響を受け、その自然環境も自然に、または人間を原因として長年の間に変化するという脈絡からすると、下線部の文はことさら人間の影響に注目して述べるものと考えられる。そうであるとすると、「特に」は *especially*, *particularly* や *in particular* を文修飾の副詞として用いるのが適切である。その後続く部分は「一部の人間の活動」を主部、「自然環境に悪影響を及ぼす」を述部としている。「一部の人間の活動」における「人間の活動」は *(the) human activities*, 「～の一部」は *some～*, *some of ～*, *(a) part of ～* で表せるので、この部分全体として *some human activities[some of (the) human activities/(a) part of (the) human activities]* などと表すことができる。「自然環境に悪影響を及ぼす」の部分は、「～に悪影響を及ぼす」を *make negative impact on ～*, *have a bad effect/bad effects on ～*, *affect ～ negatively* などと表すことができるので、これらの目的語を *the environment* または *the natural environment* とすればよい。なお、「影響」を表す際、「作用〔感化力／勢力／威光〕」を表す名詞 *influence* は適切ではない。動詞としての *influence* も、これが間接的な影響・感化を与えることを意味する語であることからすると適切とは考えられない。

次に、和文の2つ目の内容部分について考察・検討する前に、この部分を1つ目の内容部分にどのように接続すべきか考える。先に述べた通り、この2つの部分の間には逆接関係はなく、2つ目の内容が1つ目の内容にさらに情報を追加するものとなっている。よって、これらの接続には *but* や *although* は用いない。口語では必ずしも逆接関係にない内容を *but* で接続することはあるが、本文は口語調ではないことを考えると、ここでは使うべきではない。2つ目の部分の「それ」は先述の内容を指しているとも、人間が自然環境に及ぼしている悪影響を指しているとも考えられる。先に述べられている内容や、そこで言及されている物事について情報を加える場合は、非制限用法の関係詞 *which* が導く節で表すことができる。情報を追加するのであれば *and* でその内容を接続することも可能である。よって和文の「それ」は、*which* で表すかまたは *and* が導く新たな節の中で代名詞を用いて表せばよい。2つ目の内容部分においては、これを「逆戻りさせる」ことが述べられているが、これはつまり、人間の活動を、自然環境に悪影響をもたらさないようになる方向へ向かわせる、またはその悪影響を転じて害のないものにするということと考えられる。このように状況や事柄を反転させる場合には「～を転換する」という意味を持つ *reverse*, または自然環境に及んだ悪影響を帳消しにして元に戻すという意味で *cancel* を用いることが可能である。「非常に難しい」は、*quite [very/extremely] difficult* と表せる。「～ことがある」とは、つまり、人間が及ぼす悪影響は是正できる場合もあるが、そうではない場合もあることを表すものと考えられるが、そうであるとすると、そのような可能性があるという意味で *can [could]* を用いることができる。「地球規模で」は「～の規模で」を表す *on a ～ scale* を用い、*on a global scale* と表せばよい。よって、*which* 節の場合は *which can be quite difficult to reverse on a global scale* などと表すことができる。2つの意味内容部分を *and* で接続する場合、「それ」は「逆戻りさせる」対象であることからすると、先述の状況を指す *that*, または人間が環境に及ぼす影響を指す *it (a bad effect* とした場合) または *they (bad effects* とした場合) を用いて *that can be quite difficult to reverse on a global scale* などと表せる。この場合、「逆戻りさせるのは非常に難しい」は *quite difficult to be reversed [cancelled]* とすることも可能である。または形式主語 *it* を用いて *it can be very difficult to reverse that [it/them]*

と表せる。

以上より、全体としては、Particularly, some human activities make negative impact on the natural environment, which can be quite difficult to reverse on a global scale., In particular, part of human activities have a negative impact on the natural environment, and that can be very difficult to be cancelled on a global scale.などと表すことができる。

2 Our duty is not so much to pursue eternal life for human beings as to help populations in developing countries, which often have high rates of child deaths.という英文を和訳する問題。大きく分けて、文頭から developing countries までの完結した文と、先述の内容または事柄に情報を付加する which 以降の非制限用法の関係詞節から成る。

まず Our duty is [...] in developing countries の部分について考察・検討する。主語 our duty は「我々の義務 [仕事]」と訳出できる。is の後の補語部分には not so much ~ as ... 「~というよりはむしろ…」という構文がとられている。much と as の後にはそれぞれ to 不定詞句 to pursue eternal life for human beings と to help populations in developing countries が続いている。前者においては、pursue は「~を追求する」、eternal life は「永遠の生命」、for human beings は「人類のために」と訳され、全体として「人類の永遠の生命を追求すること」と表せる (for human beings は文法的には形容詞句「人類のための」でもあり得るが、「人間のための永遠の生命」というのも、間違いというほどではないものの不自然である)。後者における to 不定詞句の populations は help 「助ける」の目的語となっていることから、「人口」ではなく「人々」と訳すべきである (populations と複数になっているのは、直後の発展途上国について述べられているため)。developing countries は「発展途上国」のことであるが、単に「途上国」と呼ばれることもしばしばなので、これも表現として認められる。以上を考慮すると、この部分は「我々の義務は、人類の永遠の生命を追求することよりも、むしろ [発展] 途上国の人々を助けることである」などとなる。

which 以降の部分においては、これを主語とする述部が続くが、often に修飾された述語動詞 have は、high rates of child deaths 「高い子供の死亡率」を目的語としている。これを直訳すれば「高い子供の死亡率を持つとなるが、これは何らかの集団や地域における子供の死亡率が高いことを表していると考えられることからすると、have を直訳して「持つ」とするのは表現として不自然である。非制限用法の which 節の前の部分には助けるべき対象として「発展途上国」が言及されていることから、この which 節は developing countries を先行詞とするものと考えられる。よって which 以降の部分は、「発展途上国では子供の死亡率が高いことが多い」という内容ということになる。

以上を考慮すると、下線部は「我々の義務は、人類の永遠の生命を追求することよりも、むしろ子どもの死亡率が高いことの多い途上国の人々を助けることなのである。」などと訳出できる。

3 「このような農業様式はしばしば、広大な農地から他の植物や昆虫を取り除くため、化学薬品の使用と組み合わせられる。」という和文を英訳する問題。この文は、「このような農業様式はしばしば化学薬品の使用と組み合わせられる」という内容と、そこで言及されている行為がどのような目的で行われるものであるかということを表す「広大な農地から他の植物や昆虫を取り除くため」という内容から成る。この文を英訳する際は、基本構造となる前者を、後者を表す副詞句 (節) で表すことが考えられる。

まず基本構造部分から検討する。ここで言及されている「このような農業様式」とは、直前の文で言及されている、ここ数十年間行われている、特殊な機械が備わったトラクターを農作物の栽培、維持および収穫に利用することを指しているものと考えられる。「様式」とは物事のやり方のことなので、style や method を用いることができる。よって「このような農業様式」は、Such a farming [agricultural] style [method]と表すことができる。such

a style of ～の形にすることも可能である。これが「化学薬品の使用と組み合わせられる」ということだが、「化学薬品の使用」には the use of chemicals, 「～ と組み合わせられる」は be combined with で表すことができる。この基本構造部分は Such a farming style is often combined with the use of chemicals などと表すことができる。

「広大な農地から他の植物や昆虫を取り除くため」という部分における「広大な農地」は large agricultural land, vast farmland などと表すことができる。特定の用途の「土地」を表す land は不可算名詞扱いとなるため不定冠詞は付かない。それは farmland も同様である。しかしながら、複数形 lands, farmlands は可能である（つまり a farming land, a farmland は不可ということ）。「～を取り除くため」は to [in order to] remove ～で表す。「取り除く」という意味には get rid of ～を用いることもできる。「他の植物」は other plants とするか、または other kinds [types] of plants も可能。「昆虫」は insects で表す。脈絡からしてこの「昆虫」は農作物にとって有害な「害虫」のことと考えられるので insect pests と表すことができる（一般的には insect pests と言うことが多いようだが、pest insects も許容できる。また pests は、本来昆虫のみを指さないが、農作物という脈絡においては許容範囲と考えてよい）。以上より、この部分は to remove other plants and insects from large agricultural land のように表すことができる。

以上を併せると、下線部は Such a farming style is often combined with the use of chemicals to remove other plants and insects from large agricultural land. などとなる。

4 Future scientific investigations are expected to allow our civilization to reach this goal by preventing activities that lead to the partial extinction of species existing on Earth. という英文を和訳する問題。まず、この文は be expected to do という受動態の文を基本構造としていることに気づかなければならない。この to do の前の部分 Future scientific investigations are expected は、主語部分を「今後 [未来/将来] の科学調査」と訳すことができるので、「今後の科学調査には……が期待されている」のように訳出できる。

expected の後に続く to do 部分には、allow ～ to do 「～が…することを許す [可能にする]」という表現が用いられている。allow の目的語 our civilization は「我々の文明」と訳すことができる。その後に続く to do 部分には reach this goal 「この目標を達成する [到達する]」という動詞+目的語が続く。さらにその後に続く by 以降は by ～ ing は「～することにより」という形の副詞句である。この構造において動名詞 preventing 「避けること」は activities 「活動」を目的語としている。ここまでの考察を考慮すると、文頭から activities までの部分は「今後の科学調査には、活動を避けることによって、我々の文明がこの目標を達成できるようにすることが期待されている」などと訳出できる。

さらに、この activities は that 節により限定修飾されている。この that 節は主格の that の後には、「～につながる [～という結果をもたらす]」という意味の lead to ～という表現が用いられており、その後には the partial extinction of species existing on Earth という内容が続く。the partial extinction of species における partial は「部分的な」、extinction は「絶滅 [死滅]」という意味なので、この部分は「種の部分的絶滅」などと訳すことができる。この後に続く existing on Earth は「地球に存在する」という意味の現在分詞句であり、直前の species を限定するものと考えられる。以上よりこの that 節は「地球に存在する種の部分的絶滅につながるような」などと訳出できる。

以上より、下線部全体としては「今後の科学調査には、地球に存在する種の部分的絶滅につながるような活動を避けることによって、我々の文明がこの目標を達成できるようにすることが期待されている。」などとなる。

5 下線部は「生物進化」という意味。これについては本文において何回か言及されているが、遺伝子レベルで論じられているのは、第5段落である。第5段落は、「生物多様性もまた、生物進化にとって極めて重要である。」という第1文で始まっているが、これは、第4段落にて生物進化の長い歴史の結果地球には非常に多様な種が存在し

(第1文), それらが共生することで互いに利益を享受している(第2文)という内容を受けたものと考えられる。長い期間にわたった生物進化の結果多様な種が存在するようになったが, これらの多様な種がまた逆に生物進化にとって重要な存在になっているということである。第5段落は, 先述の第1文の後, 遺伝子情報がある生物から他の生物へと移動しそこで活性化することがあること(第2文), そしてそのような(遺伝子情報の)移動が, 生物進化の自然な戦略だと述べられている(第3文)。つまり, このような遺伝子情報の移動は生物進化を可能にする過程の1つということである。本段落最終文には, 「間違いなく, 豊かな生物多様性の喪失は移動可能な遺伝子情報を減少させ, 残った生物の生物進化に影響を与える。」とあるが, ここで言う「移動可能な遺伝子情報」とは同段落第2文で述べられている, 異なる生物間で移動することができる遺伝子情報のことと考えられる。つまりここでは, 生物進化が順調に進むには生物間で移動可能な遺伝子情報が必要だが, 生物多様性が減少すればそのような遺伝子情報も減少してしまうことが述べられていることになる。このことはすなわち, 生物進化の持続のためには, 生物間で移動可能な遺伝子情報が必要なので, 生物多様性が減少しないようにしなければならないということである。この「生物間で移動可能な遺伝子情報」が設問で問われている「(生物進化を) 持続させるには遺伝子レベルにおける何が必要」であるかということに, そして, 「生物多様性が減少しないようにしなければならない」が「何をしなければならぬか」に相当するものと考えられる。よって, 設問に対する答えを50字以内にまとめると「生物間で移動可能な遺伝子情報を保存することが必要なため, 生物の多様性を維持しなければならない。」(47字) となる。

6

(1) 設問は「第6段落の, 二重下線を施した『絹のような繊維 (silk-like fibres)』という言葉を見なさい。筆者がこれに言及する目的を説明するものは以下のうちのいずれか」という内容。下線部のある文は, 「このことの顕著な一例は」で始まっているので, その前の部分にどのようなことが書かれているか考察すればよい。下線部のある段落の第1・2文には, 「また, 生物多様性の中の個々の成員は生物的な能力を秘めている。我々は実験室で, 検討中の遺伝子産物を発現することができる他の生物にそれらを移動させることで, そうした能力を保ち, 利用しようと試みることができる」と述べられている。ここで言う「遺伝子産物 (gene product)」とは, 先に potential として言及されているある種の生物に遺伝的に伝わる隠れた能力のことと考えられる。つまり, ある生物が隠し持つ遺伝的能力を, その能力を発現できるような生物に移せば, その能力は生物の種を超えて保存され, しかもこれを利用することができるというのである。さらに続く第3文にて「そうすることで, 我々は, 我々の文明の技術的進歩に寄与する可能性のある遺伝子産物を特定することができる」と述べられている。このことから, 筆者は生物的多様性の中に潜在する能力が人間文明の進歩にも寄与し得ることを訴えていることがうかがわれる。そして下線部の「絹に似た繊維」はそれを具体的に示すものということになる。以上と内容が一致するのは, Aの「生物多様性が保存されれば, 人間は科学技術の進歩のため生物多様性の中に隠れた機能の一部を利用することができることを示すため。」である。B「実験室においてさえ, いかにしてある種の遺伝子的な能力が他の種に移動し得るかということを観察することが可能であることを説明するため。」は, 第6段落では遺伝子情報の移動の仕組みを観察することには言及がないため正解ではあり得ない。C「人々が生物多様性に及ぼしている悪影響を認識することができるように, 絶滅に瀕する種の例を示すため。」は, 人間が生物多様性に悪影響をもたらすことについて第3段落には言及があるが, 第6段落では触れられていないので正解ではあり得ない。D「1つの種から他の種への遺伝子的な能力移動は, 特定の種類のクモに特有の現象であることを説明するため。」は, 異種への遺伝子的な能力の移動という現象の例として一部のクモの能力 (= some spiders' genetic potential) が言及されてはいるが, この現象が特定のクモにしか見られないものであるとは書かれていないので, 正解ではない。E「絹に似た繊維は科学技術の進歩に貢献するが, これが遺伝子情報の移動によってのみ得られることを示すため。」は, 第6段落では確かに科学技術の進歩に貢献する遺伝子情報の移動の例が述べられているが, このような繊維が遺伝子情報の移動によ

つてのみ得られるとは述べられていないので、正解とは言えない。以上より正解は A となる。

(2) 設問は「次の陳述のうち、生き物に永遠の生命を与えることについての筆者の意見を表しているものはどれか。」という内容。「永遠の生命」については第 8 段落に記述がある。ここでは、第 1～3 文に、過去 200 年にわたる生物学的、および科学技術的な研究から得られた知見により、人間の健康や生活における活動が改善され、たった数十年の間に、生物科学が医療に応用されたことにより先進国にて人間の平均寿命が大幅に延びたこと、および遺伝子変異、行動や環境の影響もまた特定の種の平均寿命を延長し得ることが述べられたうえで、第 4 文にて「このことは近頃、生物（ホモ・サピエンスを含む）に不死、すなわち永遠の命を与える可能性についての議論を引き起こしてきた。」と述べられている。つまり、学問の進歩や、遺伝子変異、行動や環境の影響などにより、生物の平均寿命が延びてきたことから、永遠の生命を達成することも可能なのではないかという議論がなされるようになったということである。「ホモ・サピエンス」は「人類」のことであり、人間も永遠に生きられるようになるのではないかと議論されているということである。これに対し、続く第 5、6 文にて筆者は「しかし、私の意見では、この目標は、種が変化する生育環境に適應するのを生物進化が助ける驚くべき自然の過程と調和しない。全ての生物には統計的に標準的な平均余命がある。」と述べているが、これは、生き物が生育環境に適應するよう進化し、その上で生きられるおおよその長さが決まるというのが自然界の仕組みであり、永遠の生命を達成するようには働いていないことを指摘するものと考えられる。この内容と一致するのは、C の「環境の変化に適合するように種を変更することが進化の目的であることがうかがわれる世界では、人間に永遠の生命を与えるという考えを追求することはできない」である。A「遺伝子変異、または遺伝子に対する環境の影響により、永遠の生命を生物に与えることは可能かもしれないので、我々はこれらの話題についてもっと研究すべきである。」は、永遠の生命の可能性という考え方が自然の仕組みに適合しないものであると筆者が考えているとうかがわれることと相容れない。B「遺伝子改変や遺伝子への影響が生物に永遠の生命を与えることができるかどうかということは、難しすぎて人間は知ることはできない。」は、筆者自身は生物に永遠の生命を与えることが可能かどうかということは議論していないので、正解ではあり得ない。D「生物に永遠の生命を与えることは近頃議論されてきているが、これを実現するにはより多くの知識を得なければならない。」は、筆者自身は永遠の生命の実現を目指すことについて論じていないので正解ではあり得ない。E「一部の人は生物に永遠の生命を与えることについて語っているが、永遠の生命を達成することは人間に大きな損害をもたらさだろう。」は、先述のとおり筆者は生物の永遠の生命の追求には否定的だが、人間に損害をもたらすとまでは述べていないので正解ではない。筆者は、生物の永遠の生命を目指すということが自然の仕組み〔摂理〕に適合しないと述べているにすぎない。以上より、C が正解となる。

(3) 設問は「次の陳述のうち、第 9 段落で言及されている『微量栄養素』について述べているのはいずれか」という内容。

A の「それらは生物が適切に機能するために必要であり、不足すると飢えを感知する器官の発達不良を引き起こす。」は、第 4 文に「重要な微量栄養素の不足は、いわゆる隠れた（感じられない）飢えを引き起こし、欠陥のある臓器を生じさせ得る。」とはあるが、「不足すると飢えを感知する器官の発達不良を引き起こす」とは述べられていないので不適切。B の「それらは主に子供の神経細胞の発達に必要なだが、摂り過ぎは早死につながる。」は、第 6 文に、微量栄養素の一例であるビタミン A について「この場合、ビタミン A 不足は、子供の幼少期での失明や死亡の原因となり得る神経の発育不良につながる。」とあるが、その摂り過ぎについては述べられていないので不適切。C「それらは、子供の出生前後の成長に必要なビタミン A を含む食品である。それらの不足は盲目の原因となり得る。」は、第 3 文に「ビタミンや、いくつかの化学元素のような微量栄養素」と述べられており、微量栄養素は食品ではないので適切ではない。D「それらは、様々な種類の生物学的活動に必要な栄養素であり、十分に摂取しないと飢えの感知不能の原因となる。」は、第 3 文に「様々な生物学的活動がビタミンや、いくつかの化学元素のような

微量栄養素を必要とするらしいことが最近分かってきている。」とは述べられているが、「十分に摂取しないと飢えの感知不能の原因となる。」とは本文に述べられていないので正解ではあり得ない。E「それらは、健康的な生物学的活動に必要な、食品に含まれた化合物で、その不足は神経的な発達障害や児童死亡にさえつながり得る。」は、先述の第3文の内容と第6文の内容を併せたものとなっているので本文と一致するといえ、よってこれが正解となる。

(4) 設問は「次のうち、筆者が生物進化について言及していないものはどれか」という内容。Aの「生物の間の依存」は、第2段落第1文に「多様な種類の生物の共生は、個々の生物の生存(life)を大いに助け得るけることができる」、第4段落の第2文に「あらゆる生息地は通常比較的多くの異なる種を含んでおり、この豊かさは、前述の通り、共生する全ての種にとって非常に有益である。」と述べられており、第5段落の第1文に「生物多様性もまた、生物進化にとって極めて重要である。」と述べられていることから、正解ではあり得ない。Bの「分子機構」は、第7段落第2・3文に「細菌の個体群についての徹底的な調査の結果、いくつかの分子機構が時折遺伝子多様体を生成することが分かっている。そして次に、生物が一定の環境において機能を改良するか、または別の環境に適應することを可能にする多様体(変異体)の自然淘汰が、生物進化に寄与するのである。」と述べられているので正解ではないと言える。C「機能の改善」は、第7段落第7文に、生物進化の自然の戦略の1つについて「最後に、3つ目の戦略は、前述した遺伝子の移動に基づいており、それによって、受け入れ側である生物が供与側の生物から機能的なゲノムの断片を獲得することができるようになる。」と述べられている。ここで言う「機能的なゲノムの断片の獲得」とは、機能に関する情報を獲得することであるが、これが生物進化の自然の戦略ということなので、この情報獲得は生物進化に結びつくものということになる。よってCも正解ではあり得ない。Dの「新しい遺伝子暗号の発見」について、第7段落第8文に、生物進化の自然の戦略の3つ目に関し、外部の遺伝子情報獲得はuniversal genetic code「普遍的な遺伝子暗号」のため大変効率のよい過程であることが述べられているが、新しい遺伝子暗号については言及がない。Eの「新しい環境への適合」は、第7段落第3文に「生物が一定の環境において機能を改良するか、または別の環境に適應することを可能にする多様体(変異体)の自然淘汰が、生物進化に寄与するのである。」とあるので正解ではあり得ない。以上より、正解はDとなる。

7 本文内容に一致する選択肢を3つ選ぶ問題。1「生き物の身体的特徴はそれが自己の遺伝子に持つ情報と、生息する場所の状態の影響を受けるということは、何世紀にもわたり科学者たちに知られてきた。」は、第1段落第1・2文に「1940年代、生物の身体的特徴がゲノムに含まれる遺伝子情報に依存していることが科学研究により明らかになった。その後の数十年で、生命活動が、生息地の生物的・物質的な組成やより広い環境からの様々な一時的影響などの環境条件に依存していることもより明らかになった。」とあることに反する。2「生物にとって、自分とは種類の異なる他の生物に囲まれて生息することは有益である。」は、第2段落第1文「多様な種類の生物の共生は、個々の生物の生存を大いに助ける。」に一致。3「真核生物の生息地には、有益な微生物種と同等の数の有害な微生物種がいる。」は第2段落第6文に「しかし、病原性の細菌はほんの少数派であることは認識していなければならない。」とあることに相反する。4「人間の文明は、結果として人間以外のあらゆる種に影響を及ぼすので、地球の豊かな生物多様性に悪影響を及ぼすことを避けなければならない。」は、筆者が第4段落第2文にて種の多様性について「この豊かさは、前述の通り、共生する全ての種にとって非常に有益である。」と述べた上で、第3文にて「したがって、我々の文明は、人間の生活にも影響するような、この豊かな生物多様性に悪い影響を与える活動を避けるべきなのだ。」と述べていることと相反する。5「生物進化は非常に長い時間にわたって徐々にしか進行しないので、これに気づくのは難しい。しかしながら、徹底的な研究により、遺伝子における進化的変化の検知の難しさが減少した。」は、第7段落第1文に「生物進化は容易に知覚され得ない、とても遅くて連続的な過程である。」とは述べられているが、その難しさが減少したことは述べられていないので正解ではあり得ない。6「生物進化につ

ながる過程はいくつかあり、そのうちの1つは、異なる生物間で共有されている言語を介した、1つの生物から他の生物への効率的な遺伝子情報伝達が関わっている。」は、第7段落第4文以降に生物進化に至る過程が3つ示されており、その1つである生物間の遺伝子の移動について第8文に「この外来の遺伝子情報の獲得は、普遍的な遺伝子暗号（すなわち、異なる種類の生物の共通言語）のおかげで非常に効率的な過程である。」と述べられていることと一致する。7「私たちが今日目にしている豊かな生物多様性は、過去35億年にわたる生物進化の結果である。この進化はさらに40億年続き、多様性を一層促進すると推測されている。」は、第11段落第3文に「天文物理学の説によれば、太陽はその惑星に約40億年にわたってエネルギーを供給し続けると予測されている。」とはあるものの、生物進化がさらに40億年続くと推測されているとは述べられていないので正解ではあり得ない。8「地球に収容可能な範囲には限界があるのだから、いずれの種も数が増え過ぎてはいけない。特定の種の個体数が他を圧倒すると、生物多様性は減少する可能性がある。」は、第12段落第1・2文に「我々の惑星である地球には一定の大きさがあり、それゆえ、生きている生物を収容するには限界がある。豊かな生物多様性の重要性に鑑みると、特定の種が他の種を駆逐するべきではない。」とあることと一致する。9「人間はとても知性的なため、ちょうど羊飼いが羊を支配しそれから利益を得るように、他の種を支配しそれから利益を得るに値するので、キリスト教は人間を羊飼いに例えている。」は、筆者が最終段落第1・2文にて、人間には高い知的能力があるので、他の多くの種の生物と相互依存の関係にあることを悟ることを述べた上で、第3文にて「このような長期的な見識に基づいて、キリスト教では、他の種の生物とその生息地の世話をすべきである万物の善き羊飼いとしての役割は、ホモ・サピエンスにあるとしている。」とあることと相容れない。10「他の種が人間に依存しているのと同様に、人間は他の種に依存しているということを全ての人々に理解させることは人間の義務である。そのようにすることは、質の高い学校教育を提供することよりはるかに重要である。」については、最終段落第5・6文に「また、ここで説明した世界観に、地球上の全ての人類の注意を向けさせるのも我々の課題である。このためには、世界中の人間社会に適用される良質な教育が必要なのだ。」が目される。この「ここで説明した世界観」は、先に9に関して言及した第3文の内容が相当するが、第5・6文の内容から、筆者はむしろこの世界観に人類の注意を向けさせるため良質な教育が必要と考えていることになるので、10は正解ではあり得ない。以上より正解は、2, 6, 8となる。

採点基準

1 10点満点

「特に、一部の人間の活動は自然環境に悪影響を及ぼすが、それを地球規模で逆戻りさせるのは非常に難しいことがある。」

Particularly, some human activities make negative impact on the natural environment, which can be quite difficult to reverse on a global scale

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① 「特に、一部の人間の活動は自然環境に悪影響を及ぼす」という内容を **Particularly, some human activities make negative impact on the natural environment** などと適切に訳出できていれば **5点加点**。
 - 「自然環境に悪影響を及ぼす」は、脈絡的に同等の内容に表現できていれば広く認める。
- ② 「それを地球規模で逆戻りさせるのはかなり難しいことがある」という内容を **which can be quite difficult to reverse on a global scale** などと適切に訳出できていれば **5点加点**。
 - 「地球規模で」および「逆戻りさせる」は、脈絡的に同等の内容に表現できていれば広く認める。
- ③ ②の部分を非制限用法の関係として①接続するか、または①と②を等位接続詞 **and** で接続せず、「が」を **but** や **although** で表しているものは①と②の点数の合計から **2点減点**。

2 10点満点

Our duty is not so much to pursue eternal life for human beings as to help populations in developing countries, which often have high rates of child deaths.

「我々の義務は、人類の永遠の生命を追求することよりも、むしろ子どもの死亡率が高いことの多い途上国の人々を助けることなのである。」

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① **Our duty is not so much to pursue eternal life for human beings as to help populations in developing countries** の部分を「我々の義務は、人類の永遠の生命を追求することよりも……途上国の人々を助けることなのである」などと適切に訳出できていれば **7点加点**。
 - **not so much ~ as …**の構文を理解できていない場合は **3点減点**。
 - **populations** を「人口」と訳している場合は **1点減点**。
- ② **which often have high rates of child deaths** の部分を「むしろ子どもの死亡率が高いことの多い」などと適切に訳出できていれば **3点加点**。
 - この部分が **developing countries** を修飾していることを理解できていない場合はこの部分は**加点なし**。
 - **have** を「持つ」と訳出している場合も**減点はしない**。

3 10点満点

「このような農業様式はしばしば、広大な農地から他の植物や昆虫を取り除くため、化学薬品の使用と組み合わせられる。」

Such a farming style is often combined with the use of chemicals to remove other plants and insects from large agricultural land.

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① 「このような農業様式はしばしば……化学薬品の使用と組み合わせられる」の部分を **Such a farming style is often combined with the use of chemicals** などと適切に訳出できていれば **5点加点**。

- 「このような」、「農業様式」、および「～の使用と組み合わされる」は、脈絡的に同等の内容に表現できていれば広く認める。
- ② 「広大な農地から他の植物や昆虫を取り除くため」の部分に to remove other plants and insects from large agricultural land などと適切に訳出できていれば 5 点加点。

4 10 点満点

Future scientific investigations are expected to allow our civilization to reach this goal by preventing activities that lead to the partial extinction of species existing on Earth.

「今後の科学調査には、地球に存在する種の部分的絶滅につながるような活動を避けることによって、我々の文明がこの目標を達成できるようにすることが期待されている。」

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① Future scientific investigations are expected の部分を「今後の科学調査には……が期待されている」などと適切に訳出できていれば 3 点加点。
- are expected の部分は「(…と) 予想されている [(…)] だろうと思われている」など、「予期されている」という意味に訳出しているものも加点する。
- ② to allow our civilization to reach this goal by preventing activities の部分を「活動を避けることによって、我々の文明がこの目標を達成できるようにすること」などと適切に訳出できていれば 4 点加点。
- ③ that lead to the partial extinction of species existing on Earth の部分を「地球に存在する種の部分的絶滅につながるような」などと適切に訳出できていれば 3 点加点。
- extinction を「消滅」としたものも許容する。

5 8 点満点

「生物間で移動可能な遺伝子情報を保存することが必要なため、生物の多様性を維持しなければならない。」(47 字)

- ① 「生物間で移動可能な」という内容を正しく表せていれば 3 点加点。
- 「生物間で」は「異なる種の間で」としてもよい。
 - 単に「移動可能な」としたものは加点を 2 点に止める。
- ② 「遺伝子情報を保存することが必要なため」という内容を正しく表せていれば 2 点加点。
- 「遺伝子情報を失わないようにすることが必要なため」など、同等の内容であれば加点する。
- ③ 「生物の多様性を維持しなければならない」という内容を正しく表せていれば 3 点加点。
- 「生物の多様性が失われないようにしなければならない」など同等の内容であれば加点する。
 - 「生物の多様性の維持が必要である」などのように、「～をしなければならない」という末尾になっていなくても、内容的にこれと同等な表現であれば加点する。
 - 「生物の多様性が必要である」のように、行動として「何をしなければならないか」ということを述べる内容になっていない場合は、この部分は加点なし、つまり 0 点とする。

6 5 点×4=20 点

7 4 点×3=12 点

Ⅱ (70点)

解答

- 1 It is found in the ideas and experiences that are relevant to our generation and the environments in which we live.
- 2 第1の目的は、人間を、社会の一部としてだけでなく、生物が依存するより大きな生態系の一部としても見なす言語学理論を開発することである。
- 3 人間と環境の関係は、自然物の名前ではなく人の世界の表現、分類および理解の仕方にあるため、文化による違いがあること。(57字)
- 4 言語の喪失は地元の生態系に関する知識体系の継続的な伝達を断ち、数世代にわたり人々の環境との関係や生活の仕方を変える可能性がある。
- 5 C
- 6 ①-D, ②-A, ③-E, ④-C, ⑤-B
- 7 1, 6 (順不同)

解説

1 「それは、私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した、着想や経験の中に見いだされる。」という和文を英訳する問題。「それ」は、直前の文の主語 *it* と同様、第1段落第5文の主語 *language* であるが、特にその内容を明示するよう指示がなく、またいずれにしても、直前の文と同様 *it* で *language* を指す方が自然であるため、代名詞 *it* を用いればよい（本大学は、和訳対象部分に代名詞がある場合、それが指すものを明らかにしなくてよいという指示が記載されていることがある。ない場合もあるが、一般的なこととして、特に指示がなければ代名詞はそのまま訳出してかまわないし、それが指すものを具体的に表してもかまわない）。この文は「それは、見いだされる」という基本構造に、それがどこに見いだされるのかという説明「私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した、着想や経験の中に」が加えられた形となっている。「それは、見いだされる」の部分は、*It is found* で表し、「私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した、着想や経験の中に」は「～の中に」を表す前置詞 *in* が導く副詞句で表せばよい。その際、「着想や経験」を表す語句が *in* の目的語となるが、これは *ideas and experiences* で表せる。これについてはさらに「私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した」という説明があるが、これは *the ideas and experiences* を先行詞とする関係代名詞 *that* または *which* を用いた節で表せばよい。この節においてはそのいずれかの関係代名詞を主語とし、述部に「～に密接に関連した」という意味の *be relevant to* ～、または *be closely related to* ～を用い、*that[which] are relevant to[related to]* ～のように表せばよい。さらにこれらの *to* の目的語となるのは「私たちの世代や私たちが住む環境」という内容であるが、これは「私たちの世代」に *our generation*、「私たちが住む環境」には *the environments in which we live* を用いて *our generation and the environments in which we live* という名詞句で表せる。この *in which* は *where* で置き換えることも可能である。以上より、下線部は *It is found in the ideas and experiences that are relevant to our generation and the environments in which we live.* などとなる。

2 *The first aim is to develop linguistic theories which see humans not only as a part of society, but also as a part of the larger ecosystems that life depends on.* を和訳する問題。この文は *The first aim is to develop linguistic theories* という、*to* 不定詞句を補語とした SVC 構文を基本構造としている。そしてその *C* に相当する名詞的用法の *to* 不定詞の動詞 *develop* の目的語 *linguistic theories* を *which* 以降の関係節が修飾した形となっている。

まず *The first aim is to develop linguistic theories* の部分は、*linguistic theories* が「言語学理論」という意味なので、「第1の目的は……言語学理論を開発することである。」などと訳出できる。

次に *linguistic theories* を修飾する *which* 節の構造を考察する。この *which* は主格であり、熟語動詞は *see* ～ *as* …「～を…と見なす」という構文をとっている。この場合の *see* は「考える」としてもよい。*see* の目的語は *humans*、そしてその *as* が導く部分は *as a part of society* 「社会の一部」と *as a part of the larger ecosystems* 「より大きな生態系の一部」の2つある。これらは *not only* ～ *but also* …「～だけではなく…も」の構造を成している。よって1つ目の *as* から *ecosystems* までの部分は「社会の一部としてだけではなく、より大きな生態系の一部としても」と訳出できる。この2つ目の *as* が導く句における名詞句 *the larger ecosystems* はさらに *that life depends on* が修飾している。*depend on* ～は「～に依存する」という意味で関係詞 *that* が *on* の目的語だが、*that* の先行詞が *the larger ecosystems* であることを考えると、*depend on* の主語である *life* は「生物」または「動植物」という意味の不可算名詞と考えるのが妥当である。よってこの *that* 節は「生物〔動植物〕が依存する」と表せる。以上より *which* 以降の部分は「人間を社会の一部としてだけではなく、生物が依存するより大きな生態系の一部としても見なす」などとなる。

以上より、下線部全体としては、「第1の目的は、人間を、社会の一部としてだけではなく、生物が依存するより

大きな生態系の一部としても見なす言語学理論を開発することである。」などとなる。

3 下線部 translation challenges の内容を 60 字以内の日本語で表す問題。この下線部は第 2 段落の引用文の直後の部分の第 1 文に位置するもので、字義通り訳すと「しかし、言語体系の生態系への影響についての実践的な取り組みは、確実に翻訳における難題に直面する。」となる。「しかし (however)」という語が示す通り、これ以前の内容に反する内容が述べられていることになる。そうであるとすると、この陳述の具体的な内容はその後続く部分で述べられているはずである。そこで続く部分を見ると、第 2・3 文にて筆者は「我々が自然物に与える名前それ自体が、我々の自然環境との関係を表すわけではない。そのような関係は我々がどのように世界を描写し、分類し、理解するかということに現れているのだ。文化のレベルにおいて複雑な問題をもたらす得る事実である。」と述べている。それに続く、生物学的多様性や知識の強固性を説明するにも、都会化した文化においては「科学的手法の使用や定量化できる結果を通じて」行い、他の多くの文化は「日常的な慣習や物語、歌や他の様々な技芸を通じて伝達する」と述べているが、これは、直前の 2 文に述べられた内容を具体的に示す例であり、「文化のレベル」においてもたらされる「複雑な問題」のことと考えられる。つまり、言語生態学 (ecolinguistics) が人間と自然環境の関係を、言語を通して探究するといっても、画一的な方法があるわけではなく、各文化なりの世界の描写、分類の仕方を理解しなければならないということと考えられる。よって、下線部の「翻訳における難題」の内容としては、それを含む文に続く 2 文の内容をまとめればよい。その際、解答に含めるべき内容は、人間と自然環境との関係は人間が自然物に与える名前自体が表すわけではないということ、そして (そうではなく) その関係は人間がどのように世界を描写し、分類し、理解するかということに現れているということ、そして、それゆえ文化のレベルにおいて複雑な問題をもたらす得るということである。これを 60 字以内にまとめると「人間と環境の関係は、自然物の名前ではなく人の世界の表現、分類および理解の仕方にあるため、文化による違いがあること。」(57 字) などと表せる。

4 Loss of language can break the continuous communication of local ecological knowledge systems and, over generations, change peoples' relationships with environments and ways to live. という英文を和訳する問題。この文は loss of language 「言語の喪失」を主語とする SVO 型の基本構造をとっており、動詞部分には助動詞 can が用いられている。この助動詞の後に続く原形動詞は並列の接続詞 and でつながれた break と change の 2 つとなっている。

まず break から and の直前までの部分を考察する。break の後に続く the continuous communication は「継続的な伝達」、of local ecological knowledge systems は「地元の生態系に関する知識体系の」と訳出できる。そして、この内容からすると、先に触れた break はこのような伝達を途絶えさせること、つまりこれを断ってしまうことと考えられる。よって break から and の前までは、「地元の生態系に関する知識体系の継続的な伝達を断つ可能性がある」などとなる。

and の後の部分はまず over generations という表現の挿入句で始まる。この over は時間の長さを表す名詞句と共に用い、「～にわたり」を表す。さらにその後には原形動詞 change の後にその目的語 peoples' relationships with environments and ways to live が続く。relationship with ～は「～との関係」という意味なので、この部分は「数世代にわたり、人々の環境との関係や生活の仕方を変える」となるが、change も助動詞 can の後に続くものであること考えると「数世代にわたり、人々の環境との関係や生活の仕方を変える可能性がある」という内容ということになる。

以上をまとめると、下線部は「言語の喪失は地元の生態系に関する知識体系の継続的な伝達を断ち、数世代にわたり人々の環境との関係や生活の仕方を変える可能性がある。」などと表せる。

5 問いは「次の陳述のうち、『生態学』という語が第1段落で言及されている『言語生態学』においてなぜ用いられているかということをもよく説明しているものはいずれか。」というもの。「言語生態学」については、第1段落第8文に、「20世紀半ばに言語学者のエイナル・ハウゲンによって支持された言語生態学の概念は、言語をより大きな地理的・社会的・文化的環境の背景の中に位置付けるために、生態系という隠喩を採用している。」とある。つまり、ある環境における生き物の生態を研究するように、ある環境に置かれた言語の生態、つまり自然環境との関わり合いを研究するのが「言語生態学」だということである。そしてこれが「言語生態学」に「生態」という語が使われている理由と考えられる。これと同等の内容を表しているのは、C「この学問は、ちょうど人々が自然環境に影響を受けたりこれに影響を及ぼしたりしながら自然環境に存在するように、言語をある環境の中にあるものと見なすから。」である。A「この学問はいかにある地域の自然環境が、そこに住む人々により使われる生態学用語に影響を及ぼすか、ということに焦点を合わせるから。」は、本文ではある地域に住む人々が使う生態学用語は話題になっていないので正解ではあり得ない。B「これが、ある生態系の生物の間で使われる意思伝達暗号と、人間がいかにそれらを保存できるかということの研究だから。」は、本文にて生態系の生物間の意思伝達暗号としての言語やその学問には言及がないので正解ではあり得ない。D「特定の地域に住む人々に使われる言語が、そこでの天然の生態系についての認識をいかに変更し得るかということを決定するから。」は、言語と人間の認識との関係を表すものであり、言語と生態系の関係を表すものではないので正解ではあり得ない。E「この学問は、言語をそれが使われる地域の生態系と見なし、それがいかにその地域の地理、社会および文化に影響するかということを検証するから。」ということとは述べられていない。以上より正解はCとなる。

6 第2段落にある5つの空所を適切な文で埋める問題。空所の前後部分を中心に脈絡から判断する。

① 空所の直前の文は「我々の語彙はこれらの変化を反映している。」という内容。「これらの変化」とは、その直前の文の「変化する地理的・社会的背景 (the changing geographic and social contexts)」を受けたものと考えられる。「地理的・社会的背景」とは、ここでは人間が用いる言語が置かれている「背景」のことである。空所の直後部分は「そのため、2007年に『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』が、「どんぐり」、「ブルーベル」、「ミソサザイ」、「牧草地」などの自然界の多数の言葉を、現代文化におけるコンピュータ・インターフェースの増大を反映し、「ブログ」、「チャットルーム」、「データベース」などの言葉で置き換えた時には、騒ぎを起こした。」という内容。これらの「どんぐり」、「ブルーベル」、「ミソサザイ」、「牧草地」などの言葉はその言葉（この場合英語）が使われている場所における自然界の言葉と考えられる。それが、現代頻繁に使われる言葉に置き換えられたことで、「騒ぎを起こした」ということである。つまり、このような自然界の言葉が若者の目に触れなくなることによって問題を感じる人々がいたということになる。そうであるとすると、空所に適切なのは、若者たちが自然界の言葉を目にしなくなることの問題点を指摘していると考えられるDの「今日、多くの若者は鳥、木々、蝶や花の正しい名を言うのに苦労する。」である。ただでさえ若者は現代用語に埋もれ自然界の言葉から遠ざかっているのだから、辞書から自然界の言葉が消えればそれらの言葉を学ぶ機会はなくなってしまうというわけである。

② 空所の直前は先に言及した①の直後の文である。空所の直後の文は「主要な移動手段として自動車が馬車に置き代わったので、今日の英語話者は「一頭立て馬車」、「二輪馬車」、「小型馬車」のような言葉はほとんど使わない。」という内容。これは、各時代に使われているものが変われば、頻繁に使われる言葉も変わることを示したものと見える。さらにその後続く「同様に、言語の接触や自然音の変化の影響は、我々がいまやシェイクスピア、チャーサーやエセルワードのように発音しないという事実の一因となっている。」もそれと同様の内容と考えられる。つまり、時代ごとに背景を反映して言葉が変わるのは当たり前のことであることを示そうとしているのと考えられる。つまり、時代によって言葉が変わることを正当化する内容であり、従って空所の前の部分で「騒ぎ」の原因となっ

たと述べられている『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』の動きに理解を示す内容と受け取れるのである。そうであるとすると空所に適切なのは、Aの「言語は時間とともに変化する以上、ある面ではこのことは予測可能である。」である。ここで予測可能であると述べられている「このこと」が、先述の『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』の動きを指すものと考えられる。

③ 空所の直前は空所②に続く2つ目の文として言及したものである。つまり環境の変化に伴い使われる言葉は変わるものであることを表す内容である。空所の直後には「名称、隠喩や物語は、環境に対する意識的な認識を持つための枠組みを我々に提供してくれるのである。」という内容の文が続く。これは言葉が人間の意識を環境に結びつける働きをするということと考えられる。これは空所の前の、言葉は変わっても仕方ないというような見方とは対照的に、言葉は人間と環境とを結びつける重要な役割を持っていることを主張するものと言える。これは、言葉が単に環境の変化を受けて変わるだけではなく、積極的に人間に働きかけるものであることを主張するものである。このような内容展開を考慮すると、空所に適切なのはEの「しかし、言語の発展の過程と変化する社会的背景との間には相互関係がある。」である。この文は、言葉は（社会的背景の変化の影響を受けて変わるだけではなく）言葉自体も社会に影響を及ぼすことを述べるものであり、空所直後と同等の展開内容であると言える。筆者は空所部分から、言語の側からの働きかけという内容を論じ始めているのである。

④ 空所の直前は空所③の直後の文として言及したものである。空所の直後の文は「特に説得力のある美しいこれまでの1つの反応は、ロバート・マクファーレンが執筆し、ジャック・モリスがイラストを描いた『失われた言葉』という子供向けの本であるが、これは辞書から削除された植物や動物の名前のいくつかを、一連の言葉による詩とみずみずしい水彩画で紹介している。」というものである。「特に説得力のある美しいこれまでの1つの反応」という表現から、これは先述の何らかのものの一例であり、よって直前では何らかのことに對し人々が反応したことが述べられているものと推測できる。そして空所直後には、ロバート・マクファーレンとジャック・モリスが制作した子供向けの絵本とについて書かれている。その内容は「辞書」から削除された動植物の名前を盛り込んだものであるが、この「辞書」とは先に言及されている『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』と考えられる。つまり彼らのこの絵本制作は、言わば『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』の動きに対する反発を意図したものである。そうであるとすると、空所に適切なのは、『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』が辞書から自然界の言葉を除いたことに対する反動があったことが述べられていることが推測される。そのような内容となっているのはC「『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』の改訂に対する反発は、英国内の自然に関する知識やその語彙、今後の環境問題との関連性の状態についての広範な議論を呼び起こした。」である。

⑤ 空所直前は先に言及した空所④の直後の文である。空所の直後に位置するのは「それは、例えば談話分析を通じて、文化の変化、言語の変化や自然界の間の関係を探究する機会を提供する。意識と理解の向上に加えて、その枠組みには実践的な理由もある。」というものである。これは「分析を通じて」、「探求する機会を提供する」という表現から、ここで「それ」が指しているのは何らかの研究に関するものと考えられる。そのような内容となっているBの「言語生態学は言語と環境の持続可能性の間の相互作用に触れるための枠組みとして現れた。」である。

7 本文内容と一致する選択肢を2つ選ぶ問題。1の「言語がいかにして発生し変化したかということは、しばしば、それが発展した文化における神話や伝説の中に見いだされる。」という内容は、第1段落第1文の「ほとんどの文化は、神話や伝説の中に、起源や多様化というテーマを探究する、最初の言語の物語を含んでいる。」という内容と一致する。2の「アブラハムの伝承において、神はアダムに、全ての生き物の名前を教えてくれと頼んだ。」は、

第1段落第4文「アブラハムの伝承において、最初の人間であるアダムは、全ての生物に名前を付けるという仕事を神に与えられた。」と矛盾する。3の「多くの人々は、同時代の文化においてエレクトロニックインターフェースは重要だったので、2007年に『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』に施された変更を称賛した。」は、第2段落第3文「そのため、2007年に『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』が、「どんぐり」、「ブルーベル」、「ミソサザイ」、「牧草地」などの自然界の多数の言葉を、現代文化におけるコンピュータ・インターフェースの増大を反映し、「ブログ」、「チャットルーム」、「データベース」などの言葉で置き換えた時には、騒ぎを起こした。」と矛盾する。4「シェイクスピアの時代には、彼の国の人々が日々聞いたものは、おそらく今日その国の人々が毎日聞くものとほとんど同じであったろう」は、第2段落第6文の「同様に、言語の接触や自然音の変化の影響は、我々がいまやシェイクスピア、チャーサーやエセルワードのように発音しないという事実の一因となっている。」がヒントとなる。この文から、「我々」、つまり今日の人々がシェイクスピアをはじめとする過去の作家たちのようには発音しておらず、それは言語の接触や自然音の変化の影響だということになる。よって、この内容は本文と一致しないことになる。5の「ロバート・マクファーレンは、『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』がなぜ植物や動物に関する言葉を除いたのか、そしてなぜそのことについて苦情を言うべきであるかということを知るため『失われた言葉』という児童書を書いた。」は、第2段落第10文が参考となる。ここでは彼がジャッキー・モリスと、『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』から除かれた自然界に関する言葉を採り入れた本を制作したことは述べられているものの、『オックスフォード・ジュニア・ディクショナリー』がやったことを説明するためにこの本を書いたとも、これに対して苦情を言うべきであると考えていたことがうかがわれることも書かれていない。6の「言語は、人間、他の種および物理的な環境が調和して存在することにかんして役立つかということについての学問は、言語生態学と呼ばれている。」は、第2段落引用部の第1文「言語生態学は、人類、その他の種や物理的環境の間の生命維持に関する相互作用における言語の役割を探究する。」と一致する。7の「国家がその少数派集団を大多数の人々と同様になるように試みる際、その国の公式の言語を学ぶ前に自分たちの言語を適切に学ぶことを奨める。」は、最終段落第1・2文に、「同化政策において先住民の言語がしばしば最初の標的となるのは偶然ではない。言語は創造性を産み出し、想像性豊かな繁栄は国有化と植民地化の過程を脅かすのだ。」とあることと矛盾する。つまり、少数派の先住民が自分たちの言語を使えば想像力に満ちた繁栄をするが、国家はそうのように反映されては国有化や植民地化がうまく行かなくなると考えるということである。そうであれば国家が少数派の人々に彼らの言語を使うことを奨めるはずはない。8の「自然環境において何が起こっているかということ、地元の人々が地元外の人たちと同様に気づくことができるようになるため、地元の人々の権利を尊重し彼らを大多数の人々と同様に扱うことは重要である。」という内容については、最終段落最終文の「人権の観点から言うと、科学者や学者には、土地、水やその他の資源に対する権利の復活と並行して、多言語の知識体系を再活性化する計画を支援するため、現地の人々と対等な者として協力する義務と機会があるのだ。」が参考となる。ここには現地の人々をその他の人々と同様に公平に扱い、彼らと協力すべきことが述べられているが、それは「土地、水やその他の資源に対する権利の復活と並行して、多言語の知識体系を再活性化する計画を支援する」ことを目的としたものであると述べられており、「自然環境において何が起こっているかということ」を、現地の人々がそれ以外の人たちと同様に気づくことができるようになるためとは述べられていない。よって8は正解ではあり得ない。以上より正解は1と6となる。

採点基準

1 10点満点

「それは、私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した、着想や経験の中に見いだされる。」

It is found in the ideas and experiences that are relevant to our generation and the environments in which we live.

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① 「それは……見いだされる」の部分を **It is found** などと適切に訳出できていれば **3点加点**。
 - 「見いだされる」を「見出すことができる」という意味で **It can[could] be found** とした場合は **加点を2点に止める**。
- ② 「着想や経験の中に」の部分を **in the ideas and experiences** などと適切に訳出できていれば **3点加点**。
 - 「着想」を **ideas** の代わりに **thoughts** としたのも **加点する**。
- ③ 「私たちの世代や私たちが住む環境に密接に関連した」の部分を **that are relevant to our generation and the environments in which we live** などと適切に訳出できていれば **4点加点**。
 - この部分が②を修飾するものとして適切に表されていない場合はこの部分は **加点なし**。
 - 「関連した」の部分は、**connected** や **linked** など、**related** とほぼ同等の意味を持つ語句は広く認める。

2 12点満点

The first aim is to develop linguistic theories which see humans not only as a part of society, but also as a part of the larger ecosystems that life depends on.

「第1の目的は、人間を、社会の一部としてだけではなく、生物が依存するより大きな生態系の一部として見なす言語学理論を開発することである。」

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

- ① **The first aim is to develop linguistic theories** の部分を「第1の目的は……言語学理論を開発することである」などと適切に訳出できていれば **4点加点**。
 - **develop** を「発展させる」、「発達させる」など、「開発させる」と同等の表現で訳出したのものは広く認める。
- ② **which see humans not only as a part of society, but also as a part of the larger ecosystems that life depends on** の部分を「人間を、社会の一部としてだけではなく、生物が依存するより大きな生態系の一部として見なす」などと適切に訳出できていれば **8点加点**。
 - **see ~ as ...** の構造を正しく訳出できていない場合は **2点減点**。
 - **not only ~ but also ...** の構造を正しく訳出できていない場合は **3点減点**。

3 12点満点

「人間と環境の関係は、自然物の名前ではなく人の世界の表現、分類および理解の仕方にあるため、文化による違いがあること。」(57字)

- ① 「人間と環境の関係は、自然物の名前ではなく」という内容を正しく表せていれば **4点加点**。
 - 「自然物の名前ではなく」を「自然(ぶつ)を表す言葉」など、脈絡的に同等の内容であれば **加点する**が、単に「名前」または「言葉」としたものは **加点を3点に止める**。
- ② 「表現、分類および理解の仕方にあるため」という内容を正しく表せていれば **4点加点**。
 - 「表現、分類および理解の仕方」に表れるため **[に見いだされる]** と表した場合も **加点する**。
 - 「表現」の代わりに「描写」や「説明の仕方」など、「分類」の代わりに「区別の仕方」など、**同等の表現**を

用いていれば**加点**する。

③ 「文化による違いがあること」という内容を正しく表せていれば**4点加点**。

- この部分を「文化的な複雑な問題となること」のように、「文化的な違い」に言及せず、本文中の can lead to complex problems at a cultural level をそのまま引用している場合は**加点を1点に止める**。

4 14点満点

Loss of language can break the continuous communication of local ecological knowledge systems and, over generations, change peoples' relationships with environments and ways to live.

「言語の喪失は地元の生態に関する知識体系の継続的な伝達を断ち、数世代にわたって人々の環境との関係や生活の仕方を変える可能性がある。」

* 具体的に許容される（またはされない）表現については解説を参照。

① Loss of language can break the continuous communication of local ecological knowledge systems の部分を「言語の喪失は地元の生態に関する知識体系の継続的な伝達を断ち」などと適切に訳出できていれば**6点加点**。

- communication を「伝達」、「伝えること」という意味に訳さず「コミュニケーション」や「コミュニケーションする」などと表している場合は**1点減点**。
- local を「ローカルな」としている場合は**1点減点**。

② over generations の部分を「数世代にわたって」などと適切に訳出できていれば**2点加点**。

- 「数世代の間に」など、ほぼ同等の内容の表現は広く認める。

③ and…… change peoples' relationships with environments and ways to live の部分を「…で、人々の環境との関係や生き方を変える可能性がある」などと適切に訳出できていれば**6点加点**。

- change が助動詞 can の後に続くものであることを反映せず、「…を変える」などとしている場合は**加点を4点に止める**。

5 2点満点

6 2点×5=10点

7 5点×2=10点